

●特集

食肉需給の動向について

●窓

第122回 株式会社いとうフーズ
代表取締役社長 伊藤 武
「持続可能な「三方良し」を目指して」

●業界をめぐる動き

- ・令和7年度JAS認証事業者品質管理責任者等専門講習会の実施報告
- ・令和7年度JAS格付検査担当者研修会の実施報告
- ・「第60回スーパーマーケットトレードショー2026」開催
- ・令和7年度静岡県統計協会統計功労者表彰受賞について
- ・関係省庁からの情報提供などについて(会員組合員宛配信情報)
- ・食肉科研(KAKEN)コラム #123

●ひろば

第117回 明宝特産物加工株式会社

●海外情報

EU 25年11月の豚枝肉卸売価格、過去5カ年平均を下回る



内容をちょっと読み



SPECIAL
EDITION

特集

食肉需給の動向について

前村 優貴子 農林水産省畜産局 食肉鶏卵課食肉需給班 需給係

1. 食肉需給の概要

(1) 食肉消費量の推移

我が国における1人当たりの食肉消費量は、昭和35年以降、日本人の食事内容が西洋化したことなどにより、平成10年頃まで大きく増加した。その後は、食生活の西洋化の定着、少子高齢化の進展等が相まって、おおむね横ばいで推移してきたが、近年、牛肉は焼肉や牛丼、ハンバーガー等の外食を中心に、豚肉は家計消費を中心に、鶏肉は外食・中食と家計消費を同率とした消費構成で、食肉全体の消費量は一層拡大している。令和6年度には、牛肉5.9kg、豚肉13.2kg、鶏肉14.9kgとなり、合計では過去最高となる34.0kgを記録した。

特に豚肉は、価格が牛肉と比べて安価であることに加え、調理や加工向けの用途が豊富であることなどから、1人当たりの消費量は牛肉・鶏肉と比べて高い水準で推移してきた。平成に入る頃には、豚肉消費量の伸びは横ばいとなったものの、平成10年代には、国内外での牛海綿状脳症(BSE)の発生や、タイ・中国における高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、牛肉・鶏肉からの代替需要が生じ、再び増加傾向となった。しかしながら、その後はデフレ進行等に伴い、消費者の節約志向や健康志向の高まりから鶏肉の消費が大きく伸び、平成25年度には豚肉の消費量を抜いて、現在まで鶏肉の消費量が最も多くなっている。

続きは定期購読で!

定期購読のお問い合わせ

一般社団法人日本食肉加工協会 日本ハム・ソーセージ工業協同組合 総務部

TEL: 03-3444-1211 FAX: 03-3441-8287 E-mail: ask@hamukumi.or.jp